

推論與接續詞「tonaruto」

劉怡伶

東吳大學日本語文學系副教授

摘要

本研究目的在於闡明接續詞「tonaruto」之用法。「tonaruto」為表示前後句間存在推論關係之接續詞。本研究關注其推論機能並進行分析、分析結果如下：

- a. 前後句主要皆為平述句。
- b. 使用接續詞「tonaruto」時、說話者會以〈新情報〉為推論根據、並對此〈新情報〉持接納態度。
- c. 藉由使用接續詞「tonaruto」、能顯示說話者對結論並無預設立場、並暗示此結論應是能被接納的。

由本研究結果可了解：透過上述記述方式掌握接續詞「tonaruto」的用法、不僅能夠區別它和接續詞「dakara」、「(da)tosuruto」間之不同、亦能夠說明使用與不使用接續詞「tonaruto」間之差異。

關鍵詞：推論、「dakara」、「(da)tosuruto」、凝結性、溝通功能

受理日期：2017.08.31

通過日期：2017.10.20

Inference and conjunction “Tonaruto”

Liu, Yi-Ling

Associate Professor, Soochow University, Taiwan

Abstract

The purpose of this study is to clarify the usage of conjunction “Tonaruto”, which is a conjunction representing the existence of the inferential relationship between the sentences. This study focuses on its inferential function to perform analysis, and the results are, as follows:

- a. The first and second sentences are both declarative sentences.
- b. During the use of conjunction “Tonaruto”, a speaker will use “new information” as the inferential basis, and holds an attitude of affirmation and acceptance towards this “new information.”
- c. The use of conjunction “Tonaruto” shows that a speaker does not have prejudice for the conclusion, and implies that this conclusion should be affirmed and accepted.

The analysis results show that: the clarification of the usage of conjunction “Tonaruto” separates the differences between it and conjunctions “dakara” and “(da)tosuruto”, and explains the differences between the use and non-use of conjunction “Tonaruto”.

Keywords: inference, “dakara”, “(da)tosuruto”, cohesion, communicative function

推論と接続詞「となると」

劉怡伶

東呉大学日本語文学系副教授

要旨

本稿では、接続詞「となると」の用法を考察した。接続詞「となると」は推論操作の存在を明示するものなので、その機能に着目して分析した結果、次のことが明らかになった。

- a. 先行文と後続文は基本的に「演述型」である。
- b. 接続詞「となると」を用いる時、＜新しい情報＞を根拠にしている。話し手が根拠となる＜新しい情報＞に対して受け入れる意識を持っている。
- c. 接続詞「となると」を用いることにより、推論の結論は、予め決めつけたものでないことをアピールできる。また、当の結論は受け入れられるものであるとほのめかす効果がある。

また、上のように接続詞「となると」を記述することにより、接続詞「だから」「(だ)とすると」と区別できるだけでなく、接続詞「となると」を使用しない場合との違いについても説明できることを示した。

キーワード：推論、「だから」、「(だ)とすると」、結束性、伝達機能

推論と接続詞「となると」

劉怡伶

東呉大学日本語文学系副教授

1. はじめに

本稿では、(1)のような「となると」の用法に注目する。

- (1) 「(略)その女子大生は、小細工を弄して妙な偽装工作に走りまわっていた。となると、このアリバイがない女を徹底して洗う必要がありますな」

(中納言／笠原卓『仮面の祝祭 2/3』)

(1)の「となると」には二つの特徴がある。一つは文頭に来ており、接続詞として機能していることである。もう一つは、後件は前件を踏まえて辿りついた結論であることを明示しており¹、言い換えれば話し手(書き手)の中の推論操作の存在を明示していることである。接続詞「となると」²が推論操作の存在を言語化する機能を有することは、(1)'のように「となると」が用いられない場合、後件は推論の結論であると解釈しないことも可能であることから窺える。

- (1)' 「(略)その女子大生は、小細工を弄して妙な偽装工作に走り

¹ 本稿では、先行文または従属節の意味内容を前件、後続文または主節の意味内容を後件と呼ぶ。

² 本稿では馬場(1999、2002)に従い、(1)のような「となると」を「接続詞」と呼ぶことにする。確かに浜田(1991)、藤井(2013)の指摘のように「となると」を含め、「とすると」「そうすると」「それなら」「それでは」などの接続表現を一語として認めるべきかどうかという問題がある。しかし、本稿では文頭に用いられ、接続詞相当の働きをする用法に注目しているので、説明の便宜上、文頭に用いられる「となると」を接続詞と呼び、節末に用いられる「となると」と区別する。

なお、日本語の品詞体系において文頭に用いられる「となると」などの複合形式をどのように扱うべきかを論じることは重要であるが、本稿ではこの問題を議論する用意はまだできていない。今後の課題とする。

まわっていた。このアリバイがない女を徹底して洗う必要
がありますな」

接続詞は文章・談話の結束性(cohesion)³を保証する手段の一つで、文(段落)と文(段落)の関係を理解する重要な手掛かりである。(1)において話し手がなぜ接続詞「となると」で推論操作の存在を明示しているか、接続詞「となると」の用法、特にその伝達機能(つまりこの語を用いることによってどのような伝達効果が生まれるか)を考察することが本稿の目的である。

2. 考察対象

前述のように本稿で注目するのは接続詞「となると」の用法であるが、江田(1991)、藤田(2016)の指摘のように、「となると」は節末にも用いられ、つまり接続助詞としての用法もある⁴。

- (2) 「おしばい見たいわねえ。でも、行くとなると、羽織の一枚
くらい欲しいわねえ。」 (江田 1991 の例 18)

1 節で述べたように、本稿の目的は、話し手が「となると」で文と文を繋いでいる時にどのような伝達効果を狙っているかを考察することである。そこで本稿では「となると」の接続詞の用法のみを考察対象とする。ただ、「となると」の接続詞の用法は、接続助詞の用法と関連しており⁵、接続助詞の用法の理解は接続詞の用法の考察

³ 結束性(cohesion)とは文同士が指示、代用、省略、接続表現などの言語手段により意味的まとまり(文章・談話)を構成することである。詳しくは Halliday & Hasan(1976)を参照のこと。

⁴ 江田(1991)、藤田(2016)では(2)のような節末に用いられる「となると」を「複合辞」と呼んでいる。

⁵ 接続詞「となると」の成り立ちを考察することは本稿の目的ではないが、接続詞「となると」は次のような文法化を経て生じたものと考えられる。

(i) 助動詞的用法→接続助詞の用法→接続詞の用法

「となると」の接続助詞の用法は助動詞的用法、つまりコピュラ「だ」に似た機能を持つ用法が文法化したものであることについては藤田(2016)を参照の

に役立つと考えられる。3 節では、接続助詞「となると」に関する先行研究も見る。

また、「となれば」「となったら」は接続詞「となると」と類似した用法がある。(3)(4)では「となれば」「となったら」は同じく文頭に来ており、後件は前件から推論した結論であることを示している。

- (3) 「例の双子、そこまで来てます。となれば、ここを出てから、街を逃げる気でしょうぜ」

(中納言／友野詳『ルナル・サーガ』)

- (4) (略)今のように民間型で決算書を出しますと、非常に超優良企業として仮定できる。となったら、まず民営化、今すぐにでもできる、できない、それについての大臣のはっきりとした御答弁をお願いしたい。(中納言／国会会議録)

語構成上、「となれば」「となったら」と「となると」とは同じく「となる＋条件表現(ば、たら、と)」からなるものなので、共通するところが多いと推測できる。しかし、「中納言⁶」を利用して『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ-NT)』を調査したところ、文頭に用いられ、接続詞として機能する「となると」「となれば」の例はそれぞれ 232 件と 99 件あったが、「となったら」の例は僅か 4 件あった⁷。また、3 形式の実例を収集するために、検索エンジン google

こと。

⁶ 「中納言」は国立国語研究所で開発されたコーパスを検索するための Web アプリケーションのことである。

⁷ コーパスの検索条件は次の通りである。

- (i) 「となると」—a. キー：(文頭から)語彙素「と」、b. 後方共起 1：語彙素「成る」(活用形：終止形)、c. 後方共起 2：語彙素「と」(助詞)。
(ii) 「となれば」—a. キー：(文頭から)語彙素「と」、b. 後方共起 1：語彙素「成る」(活用形：仮定形)、c. 後方共起 2：語彙素「ば」(品詞：助詞)。
(iii) 「となったら」—a. キー：(文頭から)語彙素「と」、b. 後方共起 1：語彙素「成る」(活用形：連用形)、c. 後方共起 2：語彙素：「た」(品詞：助動詞、活用形：仮定形)。

上記の条件で検索した結果、「となると」は 235 件が、「となれば」は 101 件が、「となったら」は 6 件がヒットした。しかし、こうして抽出した 3 形式のデータの中に次のような接続詞の用法でないものも入っているため、手作業で調

の書籍検索の機能も利用したが、文頭に来ている「となったら」の例はなかった。ここから、「となると」「となれば」と異なり、「となったら」はあまり文頭に用いられないことが分かる。また、同じく「となる＋条件表現(と、ば、たら)」からなる3形式は同じものとして扱うことは適切ではないと言える。3形式の相違を明らかにすることも重要であるが、本稿ではとりあえず、『BCCWJ-NT』において使用回数が最も多い接続詞「となると」の用法を考察対象とする。3形式の共通点と相違点については今後の課題とする。

なお、(5)のように、接続詞「となると」に「となりますと」の形もあるが、2形式は文体の相違と考え、本稿では「となると」を代表形として記述する。

- (5) 構造改革の主眼の一つが、できるだけむだな税金を使わない、これであります。となりますと、今までの道路公団方式でありますと、費用対効果の問題について厳格な評価はされてきたのかなど。 (中納言／国会会議録)

3. 先行研究

3.1 接続詞「となると」に関する先行研究

本節では、まず接続詞「となると」に関連する先行研究を見る。

筆者の知る限り、「となると」の接続詞の用法を考察した先行研究はない⁸。辞書類では『日本語文型辞典』に次のような記述がある。

- (6) 「となると」:
a. 文頭に用いて「そのような事実を踏まえると」という意味を表す。

査対象外の例を除外した。

- (iv) (略)知らなかったばかりにあちらのお母様が「きいい!!」となると
一大事です。 (中納言／Yahoo!知恵袋)

⁸ 馬場(1999、2002)では接続詞「となると」を取り上げているが、日本語の複合接続詞の体系に着目したもので、用法の特徴を記述したものではない。

- b. 前半にはその場で話し手が新に知った事柄や、他の人の発言内容が述べられ、後半ではそのような情報に基づいてそこから話し手が導き出した判断が表される。
- c. 「だとなると」「そうだとなると」のような形をとることもある。

上記の(6c)については、『BCCWJ-NT』で検索した結果、文頭に来ている「だとなると」と「そうだとなると」の例はなかった。書き言葉では主に「となると」の形で用いられていると言える。

また(6a)については、『日本語文型辞典』における「(だ)とすると⁹⁾」の項目に似通った記述がある。

(7) 「(だ)とすると」:

前の文や相手の発言を受けて「このような現状／事実を踏まえると」という意味を表す。

(7)から「となると」と「(だ)とすると」の用法が類似していることが窺える。接続詞「となると」の特徴を明らかにするために、「(だ)とすると」の相違を記述する必要があると言える。

興味深いところに、(6b)についても、浜田(1991)に似た記述がある。浜田では、<「では」系接続語¹⁰⁾>の本質について次のように述べている。

(8) <「では」系接続語>の本質

新しい情報を受け取った時に生起する推論に基づく積極的

⁹⁾ 『日本語文型辞典』では「だとすると」と「とすると」を同じものとして扱っている。2形式は構成要素が異なるので異なる表現として扱うべきであると考えるが、両者の相違を記述するのは本稿の目的ではない。以下便宜上、2形式を区別せず「(だ)とすると」と表記する。

¹⁰⁾ 浜田(1991)では品詞より文章・談話における機能を重視しているため、発話と発話を繋ぐ機能を持つ接続詞、副詞、感動詞などを一括して「接続語」と呼んでいる。

反応である¹¹。

浜田では、「では」「なら」のような、条件節またはその一部の転用から出来た接続詞を<「では」系接続語>と呼び、この類の接続詞を用いる場合、新しい情報を根拠にしている、と指摘している。浜田では「となると」については触れていないが、語構成から見て浜田のいう<「では」系接続語>に属すると推測できる。

問題は、浜田で指摘する<「では」系接続語>のすべての特徴が接続詞「となると」に見られるか、逆に言えば接続詞「となると」を<「では」系接続語>と見なすべきか、ということである。接続詞「となると」の位置づけの問題なので、この点について5.3節で検討する。

3.2 接続助詞「となると」に関する先行研究

次に、接続助詞「となると」に関する先行研究を見る。

接続助詞「となると」に関する記述は、森田・松木(1989)、江田(1991、1992)、藤田(2016)などにあるが、藤田はこれまでの記述を集大成したものと言える。藤田の記述をまとめると(9)のようになる。

(9) 接続助詞「となると」について

- a. 「条件」を表す用法と「主題」を表す用法がある。基本的に前者は節を、後者は名詞(句)を承ける用法である。
- b. 「条件」の用法には「条件」となる事態・状況に対する当事者の向き合う意識が含まれる。
- c. 「条件」の用法と「主題」の用法のどちらからも「段階的な進展・推移」の意識が読み取れる。
- d. 一度仮定して述べたことを後の文脈で否定するような言い方では用いられない。この点では類義表現「とすると」と

¹¹ 田窪(2010: 166-168)でも浜田(1991)を踏まえて「じゃ、それなら、すると」の系列の接続詞は新規の情報を根拠にしていると説明している。

異なる。

まず、(9a)の二つの用法については、藤田の指摘のように、基本的に節を承けている(10)のような場合は「条件」を、名詞を承けている(11)のような場合は「主題」を表している。

(10) 鬼怒川が氾濫したとなると、その被害は甚大だ。

(藤田 2016 の例 1a)

(11) 青森までは新幹線で行ける。しかし、函館となると、まだ在来線に乗り継がなければならない。(藤田 2016 の例 3a)

前述のように、本稿では接続詞「となると」の用法に焦点を当てているが、接続詞「となると」は(10)のような、文に相当する節を承ける「条件」の用法と関係すると考えられる。

また(9b)については、藤田では次のように説明している。即ち、接続助詞「となると」は問題の事態・状況に対する当事者の向き合う意識を含むので、(13)のような場合には用いられない。(13)は、条件となる状況・事態に対して、きちんと向き合わず、いわばおざなりの対応をするような内容の主節が出ている場合である。

(12) 課題レポートを出さなかった{のなら／となると}、そのままでは済まされない。(藤田 2016 の例 16ab を改変)

(13) 課題レポートを出さなかった{のなら／?となると}、後で何か別のことをやらせておけばよい。

(藤田 2016 の例 17ab を改変)

(9c)については、藤田の説明のように、物事を段階的に考えて述べている場合、接続助詞「となると」がしばしば用いられる。例えば、(14)はこのような例である。

- (14) 私は昨年の合唱コンクールの前にも同じような不安を抱えていた。一人で練習するときは弾けるのに、みんなの前で弾くととなると指が震えてしまう。(藤田 2016 の例 19)

そして(9d)については、(15)で接続助詞「となると」が用いられないことから窺える。藤田の指摘のように、(15)では条件となる事柄「昨日彼に会った」は後の文脈「そんなことはあり得ない」で否定されている。

- (15) もしも昨日彼に会った{とすると／?となると}、彼は既に殺されていたのだから、そんなことはあり得ない。

(藤田 2016 の例 24ab を改変)

藤田の説明のように、接続助詞「となると」を用いる場合、条件となる事柄について後の文で否定されることがないことから、話し手は当の事柄を受け入れる意識を持っていると言える。

以上、接続助詞「となると」の特徴を見た。本稿では前述した特徴は接続詞「となると」にも見られるかどうかを考察する。

4. 分析方法

本稿では、先行研究を踏まえながら接続詞「となると」の特徴を分析する。分析の方法は次の通りである。

- (16) 考察手順
- a. 先行文と後続文の特徴を考察する。
 - b. 推論の根拠となる前件の特徴を考察する。
 - c. 前件に対する話し手の意識を考察する。
 - d. 文章・談話における機能を考察する

まず、北野(1989)、佐治(1991)、赤羽根(2003)の指摘のように、

先行文と後続文についての考察は、接続詞の用法の記述に役立つ。そこで、本稿では接続詞「となると」の特徴を分析するために、先行文と後続文の特徴を考察する。

次に、前述のように、浜田(1991)によれば、<「では」系接続語>では、新しい情報を表す前件を推論の根拠とするが、こうした特徴が接続詞「となると」の用法にも見られるかを考察することにより、この語の特徴を明らかにすることができると考えられる。

また、藤田(2016)の指摘のように、接続助詞「となると」は、接続助詞「とすると」と異なり、条件となる事柄について話し手が受け入れる意識を持っているのが特徴である。同じ特徴(つまり前件について話し手が受け入れる意識を有すること)が接続詞の用法にもあるかを考察することにより、類似した用法を持つ接続詞「(だ)とすると」と区別できると考えられる。

更に、前述のように、接続詞「となると」の伝達機能を記述することも重要である。話し手が接続詞を用いる時、どのような意識を持って、どのような伝達効果を狙っているかを分析することで、接続詞の用法の理解を深めることができると考えられる。

以上、本稿の分析方法を述べた。

5 接続詞「となると」の特徴

5.1 先行文と後続文の特徴

5.1.1 先行文から見る推論の特徴

本節では、先行文の特徴を考察し、接続詞「となると」による推論の特徴を論じる。

前述のように、接続詞「となると」は、後件は前件から推論した結論であることを示すものである。そのため、その先行文は基本的に、事象・状況の説明や判断を表す「演述型」¹²である。

¹² 「演述型」は益岡(1991)の用語である。益岡では文を「演述型」「情意表出型」「訴え型」「疑問型」「感嘆型」の五つの表現類型を認定している。詳しくは益岡(1991: 77-91)を参照のこと。

- (17) だが藤堂家の誰も、家の近所では動物を虐待していないという。となると、そんな彼らが、二年前の夏に突然残虐さに目覚め、いきなり学校へ忍び込んでウサギを殺したとは考えにくい。(中納言／宮部みゆき『心とろかすような』)
- (18) 二人が争えば善鬼が勝ち、次は一刀斎に牙を向けるだろう。となると相手は若いから勝てないだろう。

(中納言／柴田定『剣豪一刀斎』)

- (19) (略)後ろにあるワイン・クーラー・ケースの脚も消えてしまったのは不自然だ。となると、やはりこの仕掛けでは無理なのだな。(中納言／二階堂黎人『人狼城の恐怖』)

また、次のように、接続詞「となると」の先行文は、疑いを表す「疑問型」や、話し手の意志を表す「情意表出型」、聞き手の行為を要求する「訴え型」の場合もある¹³。

- (20) これは、まったく私個人の想像ですが、ビール酵母なんじゃないかと思うのですが、いかがでしょう？となると入手は簡単ですね。

(<http://riyo-kenshi.com/IKUMOU/ikumou3.htm>)2017.7.13

- (21) GW 飲み会をやるーと思う。となると、やはりあっちゃんにあわせることになるから、いつがいいかね？

(中納言／Yahoo!知恵袋)

- (22) 普通に起動する Mac OS 9 と Mac OS X の Classic 環境で使う Mac OS 9 は設定や構成などが違ってきて当たり前です。できれば兼用は避けてください。となると、妥当なのは 2 パーティションの後半か、3 パーティションのどちらかが候補になりますね。(中納言／折中良樹『Mac OS システム

¹³ 「疑問型」「情意表出型」「訴え型」については益岡(1991: 77-91)を参照のこと。

ここで注目したいのは、接続詞「となると」を用いる時、何を推論の根拠にしているかということである。例えば、先行文が「演述型」の例を見ると、(17)では、他から伝え聞いたものを先行文で表しているが、この場合、話し手が他から聞いた内容、つまり先行文の命題を事実と仮定し¹⁴、そこから何が推論できるかを表している。(18)(19)では、先行文の内容について断言できるかどうかという話し手の意識が違うものの、この場合も、話し手が先行文の命題を事実と仮定し、そこから何が推論できるかを表している。

また、先行文が「情意表出型」「訴え型」「疑問型」の例を見ると、(20)～(22)では、推論の根拠となっているのは、話し手の疑いや意志、聞き手への働きかけそのものではない。先行文が「演述型」の場合と同じく、この場合も話し手が先行文の命題(それはビール酵母であること)「飲み会をやること」「兼用を避けること」)を事実と仮定し、そこから何が推論されるかを表している。

以上、接続詞「となると」の先行文を考察した。接続詞「となると」の先行文は主に「演述型」であるが、「情意表出型」「訴え型」「疑問型」の場合もあることが明らかになった。また、接続詞「となると」を用いる時、話し手が先行文の命題を事実と仮定し、そこから何が推論できるかを表していると言える。

5.1.2 後続文から見る推論の特徴

次に、接続語「となると」の後続文の特徴を考察する。

まず、次のように、接続詞「となると」の後続文は基本的に「演述型」の文である。

(23) 浩子の努力の甲斐があつて臨海学校も支障なく実現され、

¹⁴ ここでいう文の命題を事実と仮定するということは、文の命題が事実である、または事実になると仮定するという意味である。

その勢いで秋の文化祭もうまく乗り切ることができた。となると、ますますややこしい仕事を委ねられるようになる。どんどん忙しくなる。(中納言／阿刀田高『花あらし』)

- (24) 私は気がかりなことがあると、我慢することのできない性分だ。となると、やはり質問するしかない。

(中納言／金正妍『北朝鮮女諜報員「ノメル08」』)

- (25) これは、桜井市教育委員会の発掘担当者が、出土した土器の特徴から三世紀半ばとっています。となると、箸墓は卑弥呼の墓の可能性が大だと私は思います。

(中納言／苺谷俊介『苺谷俊介の考古学対談』)

また(26)～(29)のように、接続詞「となると」の後に疑いを表す「疑問型」、話し手の希望を表す「情意表出型」の後続文が来ることもある。

- (26) わたしはローガンに心をあたえたけれど、彼の心は幽霊—亡くなった妻の幽霊のもので、これからもずっとそうだとわかっている。となると、わたしはどうなるの？

(中納言／グレイス・グリーン『愛を呼んだ約束』)

- (27) 党公認、比例区で当選。となると・・・任期中は、離党できないのですか？小選挙区で当選の場合はどうですか？無知ですみません・・・。(中納言／Yahoo!知恵袋)

- (28) 「絵本は大人が子どもに読んであげるもの。お母さん、お父さんが共感できる本を選ぶといいと思います」とは横田さんのアドバイスだ。となると、絵本制作の舞台裏も知っておきたい。(中納言／河北新報)

- (29) コンクールは1年の中でもかなりの時間を練習に割くでしょう。となると、本番では最高のコンディションで演奏したいですね！

(http://8ppy-otori.net/cts/02_concours/06<2017.7.03>)

推論との関係を考えてみると、後続文が「演述型」の(23)～(25)では、前件を踏まえて何が推論できるかといった話し手の判断を表している。また、後続文が「疑問型」の(26)(27)では、話し手が前件を踏まえて何が推測できるかについて聞き手に判断を求めている。従って、後続文が「演述型」「疑問型」の場合、前件を踏まえて何が推論できるかといった判断について話し手自身が行うか、相手に任せるかという違いがあるものの、接続詞「となると」は前件を踏まえて推論した結論を示すものと言える。

一方、後続文が話し手の希望を表している(28)(29)では「絵本製作の舞台裏を知りたい」「最高のコンディションで演奏したい」という希望は、前件を踏まえて推論した結論「絵本製作の舞台裏を知る必要がある」「練習の成果を出すために最高のコンディションで演奏する必要がある」を基にしていると考えられる。ここから、接続詞「となると」は前件から推論した結論を基にした話し手の希望を示す用法もあると言える。

留意すべきは、接続詞「となると」の後に話し手の意志を表す「情意表出型」、行為要求を表す「訴え型」の後続文が来ないことである。例えば、(28)(29)と比較してみると、(30)(31)では後続文の示している話し手の意志や依頼は前件から推論した結論を基にしているとも言えるが、この場合は接続詞「となると」は用いられない。

(30) 私は気がかりなことがあると、我慢することのできない性分だ。?となると、やはり質問しようと思う。

(31) 私は気がかりなことがあると、我慢することのできない性分だ。?となると、やはり真実を教えてください。

ちなみに、浜田(1991)の指摘のように、接続詞「だったら」「では」では推論の結論を基にした話し手の命令を表す後続文が来ることがある(但し、(32)(33)は筆者によるもの)。

(32) だったら聞いてやるから、さっさとしゃべりなさい！
(中納言／アニメディア)

(33) 「そうですか。ではご自由になさってください」
(中納言／宮脇俊三『殺意の風景』)

(30)(31)と(32)(33)から、「だったら」「では」「となると」は同じく推論の結論を導く表現であるが、後続文の特徴は必ずしも同じではないことが分かる。

以上、接続詞「となると」の後続文を考察した。接続詞「となると」の後続文は基本的に「演述型」であるが、「疑問型」や話し手の希望を表す「情意表出型」の場合もあることが明らかになった。

5.2 推論の根拠となる＜新しい情報＞

本節では、接続詞「となると」を用いる時、＜新しい情報＞を根拠とすることを論じる。

まず、ここでいう＜新しい情報＞とは浜田(1991)に従い、次のように考える。即ち、話し手にとって新規の情報、または話し手にとって既知の事実であるが、推論を行う際に新たに考慮したものであるということである。接続詞「となると」では新規の情報に基づき推論を行うことは次の例から伺える。

(34)(35)のように、接続詞「となると」では先行文脈に「なるほど」「そうか」が現れることがある

(34) 「なるほど、なるほど、となると、そういう娘を個個に探すよりも、そうした小、中学生をお弟子に持っているお師匠さんをお願いするのが一番確実だな」
(僧多聞『縁はいなもの：坊さんが坊さんの小説書いた』)

(35) 「丸尾と林田が同行しております。達川は城下の町役所にいるものと思われまして」「そうか」町奉行である達川は、不

穏な動きのある現状では、いかに谷田部派の重臣とはいえ、紅葉狩りに出かけるわけにはいかないのだろう。となると達川は谷田部たちとは別に討たねばならない。

(中納言／鳥羽亮『十三人の戦鬼』)

「なるほど」「そうか」は、新しい情報を受け取った時に現れる発話である¹⁵。(34)では「となると」の直前に「なるほど」が来ることから、聞き手の発話は話し手にとって新規の情報であることが分かる。従って、この例では、話し手は聞き手の提供した新規の情報に基づいて推論した結論を接続詞「となると」で示していると言える。また、(35)では「そうか」が用いられていることから、聞き手の提供した情報は話し手にとって新しいものであり、話し手がその情報に納得していることが分かる。そして、「となると」の根拠となっているのは、「そうか」の後に来ている、聞き手の発言を受けて話し手の頭の中で考えている「町奉行である達川は(略)紅葉狩りに出かけるわけにはいかない」ことである。従って、この例では、話し手は、聞き手の提供した情報を受けて新に出来た考えを根拠に推論した結論を「となると」で示していると言える。

一方、(36)のように、接続詞「となると」の先行文脈に「繰り返しご指摘申し上げている通り」が現れる場合もある。ここから接続詞「となると」で示されている推論の根拠は、話し手にとって既知のこの場合もあることが分かる。

- (36) そうは言っても「わが身にふりかかる不幸をすべて自己責任で引き受ける人間」を短期的に育成することははなはだ困難である。だって、それって要するに「大人」を作り出すということだからね。繰り返しご指摘申し上げている通り、いまの日本社会には、「大人」を組織的に作り出すよう

¹⁵ 浜田(1991)を参考のこと。

な制度的基盤はない。となると、消去法により残る方策は一つしかない。(中納言／内田樹『期間限定の思想』)

(36)では、根拠となっているのは、話し手の中の既存情報であるが、この場合、話し手は「不幸を自己責任で引き受ける人間(つまりいわゆる「大人」)を短期的に育てることは困難である」ことを主張しており、そしてこの主張を根拠づけるために既存情報「日本社会にそのような制度的基盤がない」ことを提供している。従って、この場合接続詞「となると」で示している結論「方策は一つしかない」ことは、こうした新に考慮に入れた既存情報を根拠に推論されたものと言える。

接続詞「となると」を<新しい情報>を根拠に推論した結論を示すものと捉えることにより、理由づけの機能を持つ接続詞「だから」との違いも説明できる。

浜田(1991)の説明のように、(37)のような、妻が来客の時間を知っている文脈(つまり妻にとって既存情報の場合)では<「では」系接続語>は用いられないが、「だから」は用いられる。この場合の「だから」は前件が後件の理由であることを示している。

(37) 夫「何時ごろ来るかなあ、桃子たち…」

妻「お昼からって言ってたから、3時頃じゃないかしら…
{だから/*じゃ}、急いで行って来るわ。」

(浜田 1991 の例 6')

また、(38)も「だから」が用いられる例であるが、田窪(2010: 166-168)の指摘のように、「だから」の後に「あんなに」が来ているので、後件は話し手と聞き手の共有する情報(既存情報)であると言える。(38)では(37)と同じく、前件は後件の理由であることを「だから」で示している。

(38) A:田中はアメリカに10年も住んでいたんだ。だからあんなに英語ができるんだよ。

(田窪 2010 : 166-168 の例 14" c を改変)

次のように、(37)(38)では接続詞「となると」は用いられない。

(39) 夫「何時ごろ来るかなあ、桃子たち」

妻「お昼からって言ってたから、3時頃じゃないかしら…
?となると、急いで行って来るわ。」

(40) A:田中はアメリカに10年も住んでいたのだ。?となるとあんなに英語ができるんだよ。

(39)(40)から接続詞「となると」は「だから」と異なり、理由づけの機能がないことが分かる。留意すべきは、話し手が後件に理由づけることが可能なのは、後件も、その理由となる前件も既存情報として話し手の中に存在することが前提となっていることである¹⁶。しかし、前述のように、推論操作の存在を示す接続詞「となると」では前件から新に推論された後件は勿論、推論の根拠となる前件も<新しい情報>である。そのために接続詞「となると」は「だから」と異なり、理由づけの機能がないと考えられる。またここからも浜田のいう<「では」系接続語>の特徴は接続詞「となると」にも見られることが分かる。接続詞「となると」は<「では」系接続語>とみなすことができると言える。

5.3 前件に対する話し手の意識

前述のように「となると」の接続助詞の用法では、接続助詞「と

¹⁶ ここで言っているのは前件も後件も同じ話し手に属する独話の場合である。一方、対話においては、田窪(2010:166-168)の説明のように、前件は聞き手の提供する新規の情報と話し手の中の既存の情報の間に因果関係を新に認め、既存の情報に対する理由を新規に知識として付け加えるという情報操作が存在する。詳しくは田窪(2010:166-168)を参照のこと。

すると」と異なり、話し手が条件となる事柄に対して受け入れる意識を持っていることが特徴である。本節では、話し手が接続詞「となると」を用いる時、前件に対してどのような意識を持っているかを考察し、類似した用法を持つ接続詞「(だ)とすると」との相違を見る。

まず、『日本語文型辞典』の説明のように、接続詞「(だ)とすると」も前件を踏まえて何が推論できるかを示す機能がある。

(41) A: 今年の 2 月の平均気温は平年より数度も高いそうですよ。

B: とすると、桜の開花も早くなるでしょうね。

(『日本語文型辞典』: 342)

(42) 脱線事故で、今日一日、電車は不通の見込みだという。だとすると、道路は相当混雑するだろう。

(『日本語文型辞典』: 342)

また、(43)(44)で接続詞「(だ)とすると」を接続詞「となると」に置き換えられることから、2形式は類似した用法があることが分かる。

(43) A: 今年の 2 月の平均気温は平年より数度も高いそうですよ。

B: となると、桜の開花も早くなるでしょうね。

(44) 脱線事故で、今日一日、電車は不通の見込みだという。となると、道路は相当混雑するだろう。

しかし、(45)～(47)では(43)(44)と同様に、前件を踏まえて何が推論できるかを後件で示しているが、この場合、接続詞「となると」より接続詞「(だ)とすると」を用いるほうが自然である。

(45) 柴山「(略)それ以上なら、売れない立地に高い家賃をぼったくられている、と考えざるを得ません。あるいは、

立地はいいのに、営業力がないとの証明になってしま
います。」

知人「いや、{だとすると／?となると}、銀座に出店してい
るお店は、みんな駄目だ、ということになりますよ！」
(柴山政行『図解入門ビジネス最新原価計算の基本と仕組み
がよーくわかる本』)

- (46) 大動脈石灰化とは動脈硬化のことですか？ {だとすると／?
となると}、何を食えば、どんなサプリを飲めば良いでし
ょうか？

([https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_d
etail/q11159445086](https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q11159445086))2017.7.15

- (47) 本書では、経済の問題だけではなく、戦争と平和、安全保
障、日本国憲法、環境危機、民主主義などが、多岐にわた
って論じられている。{だとすると／?となると}なぜ、『経
済成長がなければ...』なのか？それは、経済発展を目指す
ことこそが現実的であり、それ以外は理想論にすぎないとい
う考え方にこそ、本書で扱った多くの問題の核心がある
からである。(C.ダグラスラミス『経済成長がなければ私た
ちは豊かになれないのだろうか』)

(45)～(47)で接続詞「となると」が用いられない理由を考えるた
めにそれぞれの話し手の持っている意識・態度に注目すると、(45)
では、話し手は前件で示している聞き手の意見に対して後件で反論
している。つまり、この場合話し手(「知人」)は聞き手(「柴山」)
の意見に賛同していないが、聞き手の意見の不条理さを浮き彫りに
するために、敢えて前件が正しいと仮定した上でそこからどのよう
な不条理な結論に辿り着くかを示しているのである。また、(46)で
は、話し手は前件の疑問に対する判断を聞き手に任せている。つま
り、前件では聞き手の判断を求めており、後件ではそうした聞き手
の判断を基に更にアドバイスを求めているのである。そして(47)で

は、著者は自問自答の形で本の内容を紹介している。つまり、前件で示している、書籍の内容が多岐にわたっていることが事実の場合、なぜ著者が経済問題だけをタイトルで取り上げているのかという疑いを後件で示しているのである。このように考えると(45)～(47)では、話し手は前件に対して否定または疑問の態度を持っていると言える。また、話し手が前件に対して否定または疑問の態度を持っている場合に「(だ)とすると」と異なり、「となると」は用いられないことが分かる。

前述のように、接続助詞「となると」を用いる時、話し手は条件となる事柄を受け入れる意識を持っている。「となると」の接続詞の用法は接続助詞から文法化したものと思われる。従って、接続詞「となると」を用いる時も、接続助詞の用法の場合と同様に、話し手は根拠となる前件に対して受け入れる意識を持っていると考えられる。そのために、(45)～(47)では接続詞「となると」は用いられないと言える。

以上、接続詞「となると」を用いる時の話し手の意識の特徴を考察した。

5.4 文章・談話における機能

本節では、文章・談話における接続詞「となると」の伝達機能を論じる。

前述のように、接続詞「となると」は推論操作の存在を明示するものである。問題は、前件と後件を繋ぐために必ずしも接続詞「となると」を用いる必要がないが、なぜ接続詞「となると」を用いるかということである。

言うまでもなく、接続詞「となると」を用いる場合は、推論操作の存在を明示することで、後件の結論がどのような根拠を基に辿りついたのかが明確になり、より説得力のあるものになると言える。また、接続詞「となると」を用いることにより、話し手が論理的にものを考えていることも示すことができる。

しかし、接続詞「となると」の伝達機能を説明するために、前述のような考えは不十分である。なぜなら、後件の結論はちゃんとした根拠または理由があること、及び話し手が論理的にものを考えていることを示すために、因果関係を表す「だから」や類義表現の「(だ)とすると」を用いる可能な場合もあるからである。

例えば、(48)～(50)は「となると」の実例である。次のように、これらの例で「(だ)とすると」も用いられるが、接続詞を用いなくても可能である。接続詞「となると」を用いてどのような伝達効果が期待できるかを記述するために、この語の用法の特徴を考える必要があると言える。

- (48) 「(略)その女子大生は、小細工を弄して妙な偽装工作に走りまわっていた。{となると／とすると／φ}、このアリバイがない女を徹底して洗う必要がありますな」

(中納言／笠原卓『仮面の祝祭 2/3』)

- (49) 「(略)タカチの飲み会の欠席回数が、あたしより多かったでしょ。でも、どう考えてみても、それは変なの。少なくともあたしがいた時、いつもタカチはいたはず。{となると／とすると／φ}、タカチが欠席扱いになった日の分は、たまたま先輩が名前を書き忘れたのだとしか考えられない—ちょうど今日、—というか、昨夜みたいに、ね」

(中納言／本格ミステリ作家クラブ『透明な貴婦人の謎』)

- (50) これは、桜井市教育委員会の発掘担当者が、出土した土器の特徴から三世紀半ばとっています。{となると／とすると／φ}、箸墓は卑弥呼の墓の可能性が大だと私は思います。

(中納言／苅谷俊介『苅谷俊介の考古学対談』)

前述のように、接続詞「となると」は<新しい情報>を根拠にして推論した結論を示すものであり、かつ話し手が根拠となる前件に対して受け入れる意識を持っている。(48)～(50)で接続詞「となる

と」を用いる場合をもう一度見ると、「このアリバイがない女を徹底して洗う必要がある」「先輩が名前を書き忘れた」「箸墓は卑弥呼の墓の可能性が大きい」といった結論は<新しい情報>を基に辿りついたものである。従って、接続詞「となると」を用いる時、当の結論は発話時に推論されたもので、予め決めつけたものではないことをアピールできると考えられる。特に(48)(49)のような「誰が容疑者なのか」「誰のミスなのか」を考えている場合、結論は予め決めつけたものではないことを伝えるために推論操作の存在を明示する接続詞の使用が効果的だと言える。

また、接続詞「となると」を用いる場合は、前件の示している<新しい情報>に対して話し手が批判や疑いといった意識がないので、<新しい情報>を根拠にするのが妥当であると話し手が考えていると言える。更にそうした根拠を基に推論された結論も受け入れられるものであると話し手が考えていると言える。従って、接続詞「となると」は推論の結論は受け入れられるものであるとほのめかす効果があると言える。

6. まとめと今後の課題

以上、接続詞「となると」の用法を考察した。本稿では接続詞「となると」の推論操作の存在を明示する機能に着目して分析を行った。考察の結果をまとめると、次のようになる。

(51) 接続詞「となると」の特徴

- a. 先行文は基本的に「演述型」であるが、「情意表出型」「訴え型」「疑問型」の場合もある。話し手が接続詞「となると」を用いる時、先行文の命題を事実と仮定した上で推論を行っている。
- b. 後続文も基本的に「演述型」であるが、「疑問型」や話し手の希望を表す「情意表出型」の場合もある。
- c. 接続詞「となると」を用いる時<新しい情報>を根拠にし

ている。

- d. 話し手が根拠となる<新しい情報>に対して受け入れる意識を持っている。
- e. 接続詞「となると」を用いる時、推論の結論は、予め決めつけたものではないことをアピールできる。また、当の結論は受け入れられるものであるとほのめかす効果がある。

本稿では、上記のように接続詞「となると」を記述することにより、理由づけの機能を持つ「だから」や類似した用法を持つ「(だ)とすると」と区別できるだけでなく、接続詞「となると」を使用しない場合との違いについても説明できることを示した。

最後に今後の課題を述べる。まず、接続詞「となると」の用法を明らかににするために、形態的にも機能的にも類似した接続詞「となれば」「こうなると」「そうすると」などと比較する必要がある。また、前述のように「となると」の接続詞の用法は接続助詞の用法が更に文法化したものなので、その文法化の過程を分析することにより、この類の接続詞の理解に繋がると考えられる。更に「となると」の構成要素(つまり「と+なる+と」)を分析することにより、この語の意味特徴や類似した表現の記述に役立つと考えられる。これらの問題については今後の課題としたい。

参考文献

- 赤羽根義章(2003)「注釈の接続詞の意味用法」『宇都宮大学教育学部紀要第1部』53、pp. 1-11.
- 北野浩章(1989)「『しかし』と『ところが』: 日本語の逆接系接続詞に関する一考察」『言語学研究』8、pp. 39-52.
- グループ・ジャマシイ(1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 江田すみれ(1991)「複合辞による条件表現 I : 『となると』の意味と機能」『日本語教育』75、pp. 153-163.

- 江田すみれ(1992)「複合辞による条件の表現Ⅱ：『と』『とすると』『となると』の意味と機能について」『日本語教育』78、pp. 202-212.
- 佐治圭三(1991)「接続詞の分類」『日本語の文法の研究』ひつじ書房、pp. 281-301(『月刊文法』2-12、1970.10 初載).
- 田窪行則(2010)『日本語の構造：推論と知識管理』くろしお出版
- 浜田麻里(1991)「『デハ』の機能—推論と接続語」『阪大日本語研究』3、pp. 25-44.
- 馬場俊臣(1999)「複合接続詞の体系的考察の試み：動詞の条件表現形式による複合接続詞を対象として」『語学文学』37、pp. 19-29.
- 馬場俊臣(2002)「複合接続詞の語形と語彙的意味：動詞の条件表現形式による複合接続詞の場合」『語学文学』40、pp. 75-84.
- 藤井聖子(2013)「現代日本語における条件構文基盤の談話標識(化)：その形式と機能に関する類型試案」『言語・情報・テキスト：東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻紀要』20、pp. 87-101.
- 藤田保幸(2016)「複合辞『～となると』について」『表現研究』103、pp. 1-10.
- 益岡隆志(1991)『モダリティの文法』くろしお出版
- 森田良行・松木正恵(1989)『日本語表現文型』アルク
- Halliday, M. A. & Hasan, R. (1976) *Cohesion in English*. Longman.
- 安藤貞雄・多田保行・永田龍男・中川憲・高口圭輔(訳)(1997)『テキストはどのように構成されるか：言語の結束性』ひつじ書房